地域づくり協議会だより

第2号　平成23年8月25日発行　　発行：奥町連区地域づくり協議会

今年度より本格始動

今年度より正式な団体として「地域づくり協議会」が始動しました。
6月23日には新役員、新部会員が集まり協議会総会が開催され、その中では今後の協議会のあり方等について、参加者から貴重な意見もいただき、皆さんが真剣な気持ちで奥町の事を考えていることが感じられました。

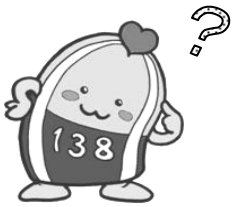
まず皆さんにわかり易く、内容や方向性を示して行くことが、これからの課題だと思いますが、「協議会」と名のある団体でもありますので、奥町の住民の皆さんの考えや意見を出しあって協議して行くことも必要だと考えます。

地域づくり協議会とは？

奥町のことは奥町の住民で考えて決めていく

奥町の色々な問題点や課題点を、協議会に参加する皆さんで話し合い、各団体に対して提案やお手伝いをし、地域の特性を生かした方法をとりながら連携を強めていきます。
そして皆さんにもっと知って欲しい、奥町で素晴らしい活動をしている方々や団体のことも広報紙などで紹介していきます。

地域づくり協議会って必要？



こんな意見がよく出てきます。「現在活動している団体が十分に機能し、奥町のために役立っている。」と言う話です。 これは確かな事でもあり他の連区と比べても奥町は街づくりという面でかなり優秀な連区だと言われています。 しかしこれは今現在での話であり将来を保証するものではありません。 将来は以下のような状況が予想されます。

核家族・独居老人・町内活動への不参加・無関心等

⇩

団体も機能しなくなり奥町の良さ「一体感」が無くなってしまう

⇩

コミュニティの崩壊、助け合いや見守り精神の消失

必要な対策

今の良い状況を維持しつつ、各種団体を一体的に連携させて、将来に向けての「奥町コミュニティー」の基盤づくりをしていく必要がある

東日本大震災の義援金への協力ありがとうございました。

奥町連区町会長会・奥町連区地域づくり協議会より、
奥町の皆様にご協力をお願いしました募金につきましてご報告を致します。
義援金の総額：　308万6209円
4月26日に「日本赤十字社」へ寄付をさせていただきました。

自分の身は自分で守る

『自助』に始まり『共助』へ進む本当の防災

自然災害だけでなく、身の回りの小さな危険や犯罪から激甚災害まで幅広くあります。
まず、『自分の身は自分で守る』と言うのが防災・防犯の基本となります。
そして、その次に自分の家族や周りの人々と協力し、助け合い対処していく。
これらがいわゆる、『自助』『共助』です。

そして、「自主防災」という組織は誰でも参加できて、各町内での共助につながります。
ただ、この組織も誰かがやってくれるからとか、誰かが助けてくれる、などと思っている人ばかりであれば「共助」のコミュニティー体制を作ることができません。

～奥町の避難場所を知ってますか？～

一時避難場所、広域避難場所、避難所と指定場所があるけど、同じ「避難」でも意味が違うんだよ。

一時避難場所

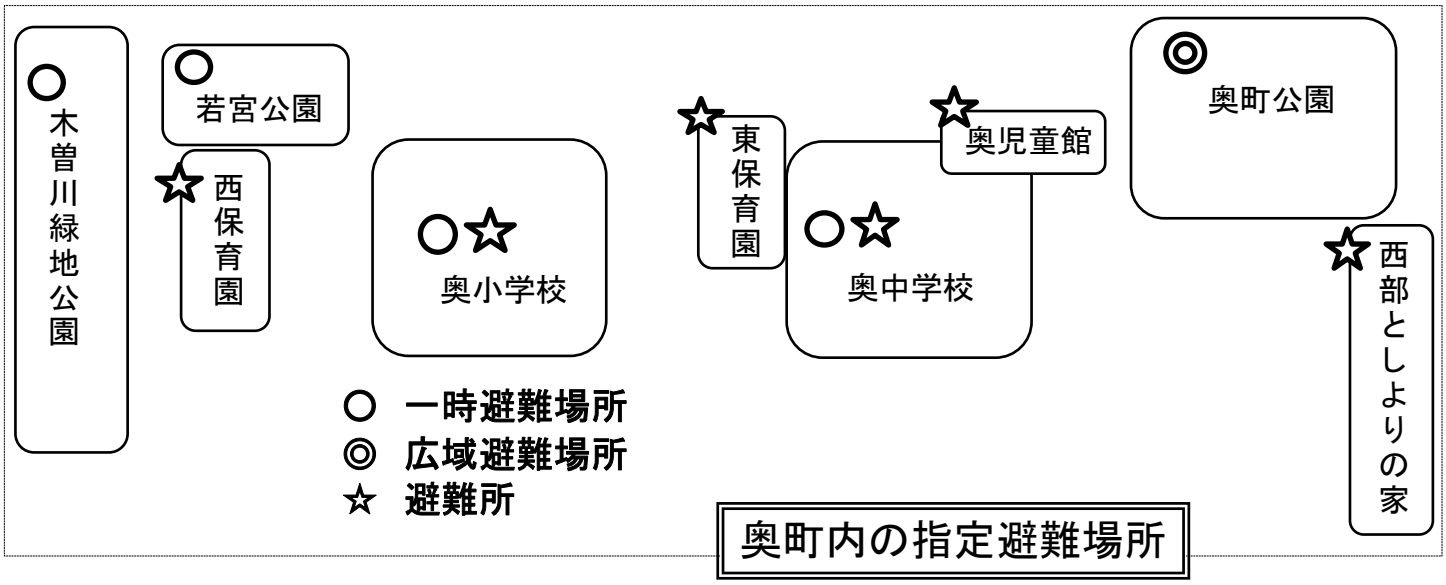
災害が発生したときに一時的に避難する場所で、学校の運動場および公園等のことです。

広域避難場所

災害が拡大し、一時避難場所の避難者に対してさらに危険となるときに避難する場所でグランド及び大公園等のことです。

避難所

災害が一段落した後、住家を失った市民や帰宅できない通行人等が臨時に生活を行う拠点のことです。地区の重点的な避難施設としては、小・中学校を「指定避難所」として指定し、食料、生活必需品の配布等の救援活動の中心的な役割を果たす避難所としています。



奥町内の指定避難場所

一宮市危機管理室の話では、「木曽川緑地公園も一時避難場所に指定されているのだが、当然水害が予想される場合には他の安全が確保出来る避難施設へ行って欲しい。」
やはり事前に家族で第一候補・第二候補と複数の場所を決めておく必要がありそうです。